

議会だより

おいずあ



令和3年7月
島根県奥出雲町議会



鉄穴流し

6月10日鳥上小学校5・6年生は、「受け継がれてきた郷土の文化を体験する学習」として、たたら製鉄の砂鉄採取体験学習を行いました。場所は日向側採取場で、山崩し作業から比重選鉱作業まで砂鉄採取体験をしました。

新議会スタート!

令和3年4月18日に行われた奥出雲町議会議員選挙において、新人議員5人を含む14人の議員が選出されました。5月13日の臨時会（初議会）では、議長に藤原充博議員、副議長に景山利則議員、監査委員に大垣照子議員が選出され、各委員会構成も決定し、新たな議会がスタートしました。



● 議長あいさつ



ふじはら みつひろ
藤原 充博

本町は厳しい財政状況の中、コロナ禍の影響に加え、人口減少、少子高齢化、小学校再編、地域活性化、医療・福祉など様々な課題が山積しており、町議会もこのような状況を深く認識しています。

月一回の定例議員会を行うなど、新型コロナウイルス感染状況をみながら、「町民の声を聴く会」を開催する予定であります。町民の皆様の貴重なご意見等をお聴きし、町執行部とともに英知を絞って創意工夫をし、つながりで築く幸せと笑顔あふれるまちづくりを目指します。

今後とも町議会に対しまして、これまで以上にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 副議長あいさつ



かげやま としのり
景山 利則

本町は少子高齢化による人口減少が急速に進んでおります。何としても人口減少の勢いを止め、ふるさとに元気を取り戻し、若者が住んでくれるような、住みたくなるようなまちづくりを進めて行かなければなりません。

町議会は行政と一体となって様々な課題を乗り越え、町民の皆様が望んでいる幸せを実感できる明るい将来に向かって進んでまいります。

議会運営につきましても、さらに議会改革を進め、開かれた議会、町民に身近な議会をめざして取り組んでまいりますので、今後とも町議会に対しまして、変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆新たな委員会構成◆

教育福祉常任委員会



教育・結婚子育て支援・社会福祉・健康保険・医療・介護・上下水道などの調査、審査を行います。

委員 長 川西明德
副委員長 糸原壽之
委員 大垣照子 小田川謙一
内田裕紀 高橋恵美子

総務経済常任委員会



財務・税務・防災・農林業・商業・観光・道路橋梁・土木などの調査、審査を行います。

委員 長 石原武志
副委員長 内田雅人
委員 内田精彦 景山利則
田食道弘 糸原文昭
北村千寿

議会運営委員会

議会運営に必要なことを審議、決定します。

委員 長 内田雅人
副委員長 糸原壽之
委員 大垣照子 川西明德
石原武志 景山利則

議会事務局

局長 石原重夫 局長補佐 安部陽子
企画員 石原達也



広報公聴常任委員会



議会だよりの編集・発行、町民からの意見聴取、情報公開などの企画を行います。

委員 長 糸原壽之
副委員長 田食道弘
委員 小田川謙一 内田裕紀
糸原文昭 北村千寿
高橋恵美子

2億4,700万円

可決

6月定例会

主な予算と質疑

補正予算を、予算決算特別委員会と総務経済、教育福祉の各常任委員会（補正後予算総額 138億1,400万円 対前年同期比91.5%）などの予算案などを、慎重に審査した結果、発議1件を除き、原案どおり可決しました。

子育て世帯生活支援特別
給付金（その他世帯分）
1,145万円



低所得の子育て世帯等に対し
生活支援給付金を給付

田食道弘委員 子育て世帯生活支
援特別給付金の内容は、

結婚・子育て応援課長 コロナ禍
での低所得者の子育てを支援する
給付金で、令和3年10月上旬を予
定している。対象児童1人につき
5万円を上限とする。

布勢小学校代替校舎整備事業
2,200万円



安全対策のための代替校舎
設計監理費

北村千寿委員 教育総合会議では、
耐震化工事と統合小学校の候補地と
は別に考えるという内容であったが、

教育魅力課長 布勢小学校は、建て
替えは行わず、来年度代替の校舎に
移転を行う。三成小学校は、候補地
の決定を受けて遅れないように対応
をする。

内田雅人委員 布勢小学校のリース
による代替校舎とは、今後建築費等
はどうなっていくのか。

教育魅力課長 代替校舎は、ユニツ
ト型の建物でリース契約を結ぶ。令
和7年4月を統合の目途としている
が、それまでのリース費用、工事費
用等を9月のところで精査し提案す
る。

ふるさと応援宅配事業
2,235万円



町外で暮らす家族等に
特産品を送る費用を
助成（一世帯5便）

大垣照子委員 昨年の年末、地元の
物産を郵便局から発送した事業か。

企画財政課長 昨年と同様に地域包
括連携協定を結んでいる日本郵便を
利用したふるさと応援宅配事業で、
今年度は夏から冬にかけて、期間を長
くして実施する。

令和3年度

一般会計補正予算（第2号）

令和3年6月定例会は、6月9日から24日まで開かれ、上程された各会計の
にて4日間にわたり詳細に審査しました。一般会計補正予算2億4,700万円
3件、条例案4件、請願1件、報告8件、財産取得2件、工事請負契約の締結1件な

6月定例会

産直市消費拡大応援事業

2,052万円



地元農産物の消費拡大及び販売促進による支援

大垣照子委員 産直市消費拡大応援
事業の内容は。

農業振興課長 地域の農産物や加工
品を購入いただいた事業所への支援
で、8月から12月までの5か月間で、
1か月の上限を5万円とする。

プレミアム付き商品券発 行事業

4,067万円

コロナ禍により低迷する町内消費
を喚起

プレミアム付き宿泊飲食 等利用券発行事業

4,300万円

宿泊・飲食業における消費を喚起

内田裕紀委員 プレミアム付き商品
券及びプレミアム付き宿泊飲食等利
用券のプレミアム率と発行日は。

商工観光課長 プレミアム付き商品
券は、額面4,500円の商品券を
3,000円で早期に販売する。プ
レミアム付き宿泊飲食等利用券は、
額面6,000円の利用券を3,000
円で販売し、宿泊施設、飲食店、観
光施設、温泉等の観光施設のほかに、
タクシーにも使えることを追加した。
10月ごろ発行する。

高橋恵美子委員 プレミアム付き商
品券の事業者への換金は。

商工観光課長 なるべく早いところ
で換金ができるよう、今後具体的
なところは詰める。

新型コロナウイルス感染 症検査委託費

PCR検査等委託費
699万円

・成人式出席者を対象と
した抗原定量検査委託費
288万円



上段：PCR検査機器
下段：抗原定量検査機器

糸原文昭委員 検査委託料とあるが、
検査の委託先は。

健康福祉課長 この事業は、町立奥
出雲病院で実施するPCR検査と抗
原定量検査に対する助成である。

令和2年度 第3セクター・土地開発公社 事業報告

第3セクター・土地開発公社

株式会社 奥出雲振興

売上高	4億314万円
(前年比)	67.4%
純利益	△3,666万円
《玉峰山荘》	
売上高	2億3,353万円
純利益	△1,608万円
《サイクリングターミナル》	
売上高	4,078万円
純利益	△986万円
《特産市》	
売上高	9,022万円
純利益	297万円
《斐乃上荘》	
売上高	3,861万円
純利益	△1,369万円

大垣照子議員 雇用調整助成金等は、雑収入に計上されているのか、また未収金が前年比の3倍の金額であるがその内訳は。

商工観光課長 雑収入に入っており、未収金の内訳は、雇用調整助成金、消費税還付金、三成駅、横田駅の委託料等が含まれている。

内田雅人議員 事業計画に今後の斐乃上荘のあり方を多方面から検討するとあるが、今年度方向性を示されるのか。

町長 今年度中には方針を決定したい。

田食道弘議員 ターミナルは大規模改修工事を予定とあるが、コロナ禍で今後のあり方を検討する必要がある。

商工観光課長 ビジネスやスポーツ合宿等、個人客に対応ができる施設の改修を考えている。

奥出雲仁多米株式会社

売上高	5億6,486万円
(前年比)	101.4%
純利益	466万円

※町への寄付金2,500万円

田食道弘議員 米卸売業者はかなり在庫を抱えていると聞いている。見通し、また対策は。

農業振興課長 米余りの傾向であるが、日本農業遺産に認定された地域でもあり、消費者の動向も見ながら、仁多米を積極的にPRしていく。

株式会社仁多堆肥センター

売上高	4,036万円
(前年比)	99.0%
純利益	△3万円

大垣照子議員 ストックヤードの増設の考えは。

農業振興課長 補助事業の活用等、堆肥ストックヤードの増設を検討している。

一般社団法人奥出雲町農業公社

売上高	1億3,666万円
(前年比)	100.1%
純利益	78万円

田食道弘議員 新たな担い手への研修事業について。

農業振興課長 新規就農者の募集並びに研修、さらに商工観光課と連携した農業体験等を行う。

大垣照子議員 農地中間管理機構としての調整は。

農業振興課長 県の農業振興公社が中間管理機構として取り組んでいるが、実質的な支援は農業公社が仲介して円滑に進めている。

有限会社奥出雲椎茸

ここ数年不適切な在庫管理を行っていたため、このたび特別損失として計上した。

売上高	7億7,491万円
(前年比)	86.8%
純利益	△1億3,501万円

大垣照子議員 不適切な会計処理により、決算報告を受けていたことに対し、不信感を抱く。町長としての責任について問う。

町長 詳細について調査中だ。経営は厳しいが、時間をかけて頑張っていく。

藤原充博議員 この件については、今後改めて議会にその結果を報告していただきたい。

株式会社舞茸奥出雲

売上高	2億349万円
(前年比)	97.5%
純利益	370万円

※町への寄付金 500万円

奥出雲町土地開発公社

事業収益	1,502万円
(前年比)	56.3%
純利益	370万円

町政のこころを聞く

質疑の一部を要約してお伝えします

質問時間は、一人30分以内
今回は11人が登壇しました。



川西 明德 議員

質問 子どもの均等割は廃止すべきだ

町長 減免制度の拡充を求めていく

質問 国保の未就学児の均等割を減額し、公費の支援制度が創設されたが、なぜ未就学児までか。なぜ5割軽減か。18歳まで廃止すべきではないか。

町長 これまでも国に、子どもの均等割減免を要望してきたが、これが今回の未就学児減免の制度創設につながった。

さらに、対象年齢、軽減割合の拡充を求めていく。



ワクチン接種について

質問 コロナ感染拡大の第4波は全国に変異株も広がり、都市での医療危機、全国では暮らしと事業の疲弊と危機などが深刻になっている。

町長 65歳以上の集団接種、個別接種は混乱もなく、順調だ。予算総額1億円余りは全額国の交付金負担金だ。

あわせ立案、実行すべきだ。
喫緊の課題はワクチン接種だが予算の編成状況は。

感染症対策の主体は自治体であり、独自の防疫、医療、産業支援、福祉政策も地域の個性、特性に

高齢者医療費について

質問 高齢者医療費2倍化法が成立した。現役世代の負担軽減のためというが、

自治体が980億円、事業主360億円の負担軽減だ。現役世代の軽減は年間一人当たり350円だ。高齢者が医療費負担

担に苦勞しているとの認識は。

町長 高齢者の多くは年金収入のみだ。被保険者の6割が軽減措置を受けていて負担は大きいと認識している。

介護保険について

質問 介護保険が施行され20年。「社会的入院の解消」「介護の社会化」「介護離職の解消」等の目的は達成できているか。権利としての社会保障になっているのか。

町長 家庭で介護することが当たり前の時代に比べると格段に軽減されている。

三成小学校の耐震改築について

質問 のびのびになって、子どもたち教職員に負担を強いている三成小学校の耐震改築はすぐに現地で着手することを求める。

町長 先般の総合教育会議では、耐震化未実施の校舎対応を議論し、小学校再編

協議とは別に早期に対応することを確認した。

三成小学校は、仁多地域統合小学校の建設地の決定を受けて、代替校舎の建設場所を選定し、整備を進める。
代替校舎建設用地の確保は公共用地の活用を考えている。





内田 精彦 議員

質問

結婚祝い金制度創設の考えは

町長

現在創設の考えはない



町長 他の子育て支援策も含め検討したが出産祝い金は現行どおりとした。

質問 人口減少問題、少子高齢化対策、子育て環境改善の観点から、拡充の考えは。

出産祝い金制度の拡充について

質問 少子化対策の一環として、結婚を促進し、出生数増につながる目的で結婚祝い金制度の創設の考えは。

町長 現在創設の考えはないが、引き続き定期的な結婚相談所の開設や出会いの場の提供、結婚・子育てコンシェルジュや地域サポーターと連携した個別マッチング支援に取り組む。

町長 様々なところを精査しながらしっかり対応したい。

質問 新聞報道等によれば、1年間の妊娠届の件数が新型コロナウイルスウィルス感染拡大による不安から妊娠控えが過去最少を記録したとある。このような状況下でもあり祝い金の拡充を願う。

木次線存続とトロッコ列車の運行について

質問 山陰中央新報によるJR木次線のトロッコ列車、奥出雲おろち号、2023年の運行を最後に終了する方針。の記事について町長の所感は。

町長 これまでJR側と関係市町、特に雲南市を中心に県に

も加わっていたが、現在のトロッコ列車に代わる新車両の建造、あるいは改造車両の要望を強く行ってきたので、この度の報道については、残念に思った。引き続き県と連携し、トロッコ列車、奥出雲おろち号を末永く運行していただくよう

JR側へ強力に要望したい。

質問 木次線トロッコ列車の運行終了と木次線の存続、廃止の関連はあるのか町長の考えは。

町長 JR米子支社の会見では、老朽化に伴うもので木次線の存続とは関連しないとの見解。しかしながら、JR西日本の長谷川社長から、赤字の地方路線について、沿線自治体と今後の在り方について協議したい旨の発言があった。トロッコ列車の運行終了が将来的な木次線の廃線を見据えているとすれば、大変なことになると心配している。



出雲横田駅を利用する横田高校生

質問

公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進は

町長

庁舎のあり方については引き続き検討を進める



小田川 謙一 議員

質問 町行政改革審議会より答申のあった「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」の現在の状況は。

総務課長 平成29年3月に「奥出雲町公共施設等総合管理計画」を策定し、個別施設で管理計画を立

ている。

平成30年度、都市公園施設、令和2年度、学校施設の長寿命化計画を策定。

令和元年度、町道ののり面と道路構造物の長寿命化計画を策定した。

質問 役場庁舎については、行革審では

「分庁舎方式を解消することが望ましい」と出されているが。

町長 町民の皆様のご利便性と効率的、効果的な行政執行のバランスを熟知しつつ、危機管理の対応も踏まえて引き続き検討を進める。



横田 庁舎

中学校の部活動の在り方について

質問 近年の生徒数減少に伴う、仁多中学校、横田中学校における部活動のあり方について伺う。

あり方整理などの具体的な提案がなされている。

他の市町、県内の動きを踏まえて、本庁の部活動においても、同様な取り組みを目指すことになっていくと考える。

教育長 部活動は、教育活動とは異なる集団での活動を通じて、基本的な人間形成の場であると考えられている。

部活動を支えてきた顧問である教員の長時間勤務の一因にもなっているということも否めない事実である。

要望 中学校の部活動については、高校、特に横田高校との関連もいろいろあると思う。

国からは、持続可能な部活動と、教員の負担軽減の両方の実現を目指して、休日の部活動を段階的に地域指導者へ移行することが言われている。そして、他校との合同部活動の推進、また地方大会の





糸原 壽之 議員

質問 病院医院通いのバスダイヤを

町長 意見箱をバスに設置し意見を聞き検討する

質問 高齢者の病院医院通いのバスダイヤの編成を。

町長 バスダイヤは通学を主体としてい

るので、病院医院通いには不便もあると思う。利便性向上のため、皆様の幅広い声を聞く意見箱をバスに設置し検討する。



奥出雲交通バス もっと町民の意見を

世界農業遺産登録申請の現在の状況は

質問 本町の「たたら製鉄が生んだ奥出雲の資源循環型農業」が今、世界農業遺産認定申請中であるが、現在の状況及び今後の予定は。

町長 現在、砂鉄採取跡地の水田開発、

また和牛飼養と森林を利用した複合的な農林畜産業へと転換を遂げて現在に至っている。この独特な景観や文化、自然環境が保たれていることなどを申請書にまとめていく。これを更に英訳し、今秋に

FAO(国際連食料農業機関)に提出する予定である。提出後は、令和4年以降になるFAOの科学的助言グループによる現地調査があり、認定の可否はその後の予定である。

獣害対策及び昨年度の実績は

質問 今年度の獣害対策の方針、方策、予算は、合わせて昨年度の捕獲数、被害額は。

農業振興課長 昨年度のイノシシ捕獲数は1213頭、共済金支払額は約330万円、被害面積は8町2反8畝であった。令和3年度の有害鳥獣被害防止の取り組みは、狩猟期間中

の有害鳥獣捕獲の再開。そして、防護柵の設置助成、更に狩猟免許取得希望者への事前講習会受講料の支援、捕獲わな費用助成、農地と山林との緩衝地帯整備、

被害防止の情報提供を行うこと。予算は、鳥獣捕獲報奨金2000万円、緊急捕獲活動支援事業費262万円、防護柵助成費1000万円などである。

奥出雲たたらと刀剣館の修繕を

質問 同館は外周壁の汚れ、ひび割れ、建物屋根根底の剥がれ、館内照明の劣化、展示紹介パネルの色あ

せ、おろちモニュメントの壊れや錆発生などが目立つ。早期に修繕をされたい。



刀剣館 修繕が急がれるおろちモニュメント

町長 開館以来30年が経ち、老朽化が進み、経年劣化の為に修繕が必要箇所が多数ある。今後点検を行い、適切に修繕していく。



質問 町三役の新型コロナウイルス 予防接種は

町長 余剰ワクチン接種の対象だ

糸原 文昭 議員

質問 各自治体の首長のワクチン接種対応が分かれている。接種のキャンセルが生じた場合、ワクチンが無駄とならないよう接種会場スタッフ、町三役に接種をする町ホームページに掲載されたが、この見解は。

町長 接種会場で接種者と接触する民間の方、役場職員等や従事者を第一に対象とした。町政をつかさどる立場、危機管理者として優先して接種すべきと意見をいただいたことから、町三役も余剰ワクチンの接種対象とした。

質問 雲南市役所ではクラスターが発生し、業務に大きな影響を与えた。感染症に対する条例等のルールの策定は。

町長 令和3年3月に策定した新型コロナウイルス感染症対策に係る業務継続計画を基に危機管理に取り組む。

質問 夏休み期間中、中国中学校選手権大会や高校総体が開催され、引率の教職員、生徒に対し、感染の心配がある。また、全国では既に12歳以上の生徒の接種が開始されているが。

健康福祉課長 接種を優先しなければならぬ事由もあり、一般接種の優先順位を考える。12歳以上の生徒の接種は、教育委員会と相談し、決まり次第お知らせする。

質問 過疎地域における集落機能の維持及び再編について、どう考えているか。

町長 少子高齢化、人口減少に伴い集落機能は低下し、再編が徐々に進んでいる。小さな拠点づくりによる集落機能の維持及び再構築を推進する。

集落機能の維持及び再構築について



家並みは変わらないが過疎は進む

行政無線整備事業について

質問 現在設置されている屋外防災行政無線の場所では、暴風雨等により聞こえない。また、各地区の末端まで災害状況が伝わらないが、現在の計画は。

町長 行政無線整備事業の先進自治体を調査し、受信機を全戸配置、新たな周波数での改修、告知放

送端末などの整備計画を進める。

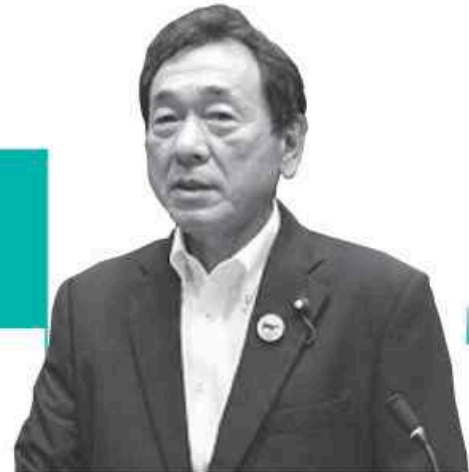
質問 登録制のメールでは防災や火災発生等の情報、防犯、国道などの通行止め、熊の目撃情報などの

配信ができるが、システム構築の考えは。

町長 ヤブーと協定を結び防災速報アプリで、情報発信を行なっている。



防災行政無線の屋外拡声子局



北村 千寿 議員

質問 農業・畜産・林業振興の具体的な取組みは

町長 インターネットやSNSにより奥出雲ブランドの情報を発信する



農業公社で栽培した粗飼料

質問 人口減少対策として策定された総合戦略にある「稼ぐ地域をつくる」という目標に向け、農業、畜産、林業の具体的な取組みはなにか。

町長 農業は、インターネットやSNSにより奥出雲ブランドの情報を発信する。世界農業遺産の認定を受けたら、ブランド力の強化を図るた

め、農産物の認証制度の創設を検討したい。畜産は、空き牛舎の活用などで新規就農者の初期投資の軽減や農業公社で栽培した粗飼料の供給等で増頭につなげ農家所得の向上をめざす。林業は消費者ニーズに即応できる木材の供給体制構築と高付加価値化での販売をめざす。

再質問 米の消費が年間8万トン減少する中いかに売っていくのか。

農業振興課長 消費者の意見も聞きながら、消費者に選んでいた、ただける米を作っていくたい。

質問 鳥上小学校校庭に隣接した「たたら体験学習施設」について、一般の方を対象に体験研修として利用してはどうか。

町長 一般の方を対象とした活用は多くの課題があり、課題解決するためにどのような方法があるか考えていきたい。

再質問 施設の利用はたたら製鉄の普及啓発にとどまらず観光振興への広がりもある。課題解決に向けた対応を。

教育長 商業面や観光ベースの場合、日刀保の協力がどこまでなる



たたら体験学習施設（鳥上小学校敷地内）

地域づくり推進課長 製鉄文化の普及啓発という範囲にとどめてやれば、将来的には利用できる。

商工観光課長 たたら製鉄という伝統文化を活用した観光振興についてどういう方法があるか検討したい。

たたら体験学習施設の有効利用について

か、また、費用面の問題もある。

質問 特定健診受診率60%の目標達成への取り組みは

町長 健康に関心を持ってもらうため
広報等積極的に行なう



内田 裕紀 議員

質問 第2次総合計画における住民の健康づくりの指標として特定健康診査があるが、2025年までに受診率60%の目標達成に向けた取り組みは。

町長 AIを活用した受診勧奨及びインセンティブの付与の継続、働き盛りの方が受診しやすい健診の日程設定や医師会との連携による個別健診の勧奨、さらに

健康に関心を持ってもらうために広報ケーブルテレビ、ICTを活用して積極的に行う。

質問 2025年を展望した地域医療構想を踏まえ、奥出雲病院の果たすべき役割は大きい。このことについて、地域医療連携法人の設立もあるようだ。また、新たに確保した2人の総合医の先生の役割を含め、今後の奥

出雲病院の果たすべき方向性は。

病院事務長 昨年4階に介護医療院を開設、4月に2人の総合診療科の医師の確保、7月に院内に在宅診療センターを立ち上げ、在宅診療に力を入れ、現在、本町が進めている奥出雲町医療介護ネットワークの中心的な役割を果たす。

町職員の待遇改善について

質問 2019年に働き方改革関連法が施行され、少しでも職場環境をよくすることが進んでいる。

町長 本町の職員給与は県内で最も低いということを私は十分認識している。何とか少しでも改善したいという思いはある。しかし、第3セクター等の給与については、それぞれの団体の経営状況を踏まえ改善していく。

小学校の再編・統合協議について

質問 今小学校の再編・統合協議では、ハード、施設ありきが優先されている。子どもの学力を把握し、どんな教育環境で育てていくかについて一番接している保護者と教員、教育委員会ですまず素晴ら

しい学校をめざして意見をまとめ、そのうえで施設も一緒に議論できないか。

教育長 今後の学校地域の中での学校地域と子どもたちの関わり、それをどう考えていくか、保護者

自治会、そして教育委員会、行政も入り、これからの奥出雲町、それぞれの校区をどうするか、その中で子どもたちをどう育てていくか、広い視野で検討していきたい。



第2次奥出雲町総合計画



内田 雅人 議員

質問 防災と福祉をつなげた 組織づくりの強化を

町長 自主防災組織づくりを
支援していく



除雪にも地域防災の仕組みが生かせないか

質問 防災と福祉を
つなげ、災害に強い
地域づくりが必要だ。

小さな拠点づくりの
活動の中で、その課
題が多く上がってい
る。

平時において配慮
が必要な方の把握と
見守り、連絡網作成
などができる自主防
災の体制づくりを、
全地区で進めること
が必要ではないか。

町長 必要不可欠だ
と考える。防災士の

養成や消防防災訓練
の実施に今後も取り
組みたい。災害に強
い地域づくりという

観点からも、小さな
拠点づくりの活動を
今後も支援していく。

質問 役場職員も含
めて、各地区に防災
士を増やす取り組み
を強化すべきだ。今
年の資格取得研修の
応募状況は。

総務課長 一般から
18名、役場職員は5

名が目標だが、現在
応募者は両方で9名
という状況だ。

質問 資格取得の働
きかけを強化してい
ただきたい。

地域の防災組織が
作られて機能すれば、
除雪にも活かせる。
また行政や消防団、
社会福祉協議会と連
携し、役割分担をす
ることで、大雪での
孤立解消などの早い
対応が可能となるの
ではないか。

町長 自主防災組織
の活動が盛んになれ
ば、現在の助け合い
除雪も拡大され、地
域の困り事の解決に
大きく貢献できると
考える。

農業遺産から経済効果を生み出す施策を

質問 世界農業遺産
認定への取り組みと
ともに経済効果を生
み出す施策が必要だ。

いくら世界的な地域
となっても 生活設
計が描けなくては人
は出ていく。
農業遺産アクション
プランにある町民
の誇りの創出、観光
客の増加、農畜産物
のブランド化は、経
済効果という面でも
進めたいという取組
みだ。それぞれの具
体的な施策は。

町長 町民の誇りの
創出では小中
学校や横田高
校において農
業遺産に関係
する授業。観
光客の増加は
棚田の景観見
学や農業体験、
農泊などを組

み合わせた旅行プラ
ン造成の検討。農産
物のブランド化は農
産物認証制度の創設
を進めたい。

再質問 認証制度創
設は世界農業遺産認
定後に行うのか。ス
ピードも大事だ。任
期中に実現を目指す
という町長の強い思
いはないか。

町長 認定を受けて
からと考えている。
私の任期はあと僅か
だが、あせらず対応
していきたい。



進めていきたい農業遺産
アクションプラン

質問 情報通信高速化への その後の対応は

町長 国の施策を踏まえて検討する



大垣 照子 議員

質問 I-T環境等の
情報通信大容量・高
速化の質問を昨年9
月・12月議会で行っ
た。情報化社会の中
また新型コロナウイルス
ルズ感染症の大流行
でテレワークが進み、
ますます情報通信の
高速化が重要となっ
ている。9月議会で
は、「前向きに対応し
即刻、内部協議や業
者と相談したい」と
答弁があった。利用
者が求めているのは、
迅速に仕事が出る
高速化だ。その後の
対応は。

町長 高性能な設備
や機械の更新を進め
ている。県、民間事
業者への働きかけや、
国の施策を踏まえ良
い方法を検討する。

質問 国は、今年度
も高度無線環境整備
推進事業の追加公募
を行っており、今年
度で全市町の整備事
業を終えるとしてい
る要望施策の実現に
向け最後のチャンス、
決断を。

町長 通信事業者へ
の回線使用料は補助
対象にならず、本町
での活用は困難。

質問 若者定住、持
続可能な町づくり
に必要な町づくりに
必要不可欠なツール
現状維持でいいのか。

町長 国の施策を注
視し、若者から本町
の通信環境は良いと
言われるようにする
ことが、私の責務で
ある。今後、将来を
見越し対応する。

高齢者サポートについて

質問 高齢になると
1人での外出が困難
で、買い物や通院へ
の交通弱者対策が重
要。高齢者交通サポ
ート事業では不十分
である。行政が中心
的役割を果たし、自
宅まで送迎できるデ
マンドバス等を導入
し全町的なサポート
体制を。

町長 高齢者の移動
支援は、重要な施策だ。
デマンドバスは有効
な手段であり、導入
すべきであるが、現
在の輸送能力では困
難だ。関係事業団体
等と一体となり、公
共交通ネットワーク
を令和5年度までに
形成したい。

玉峰山周辺整備について

質問 本町は、玉峰
山周辺約5.4haを
町民の森・亀高団地
として、令和元年12
月購入した。以降
何の計画の説明もな
い。保安林が多く開
発は困難では。

町長 整備内容と概
算事業費、収支計画等
民間に委託し調査し
た。事業内容の提案
とそれにとまなう事
業費1億7,000
万円を示された。現
在協議中で、報告で
きる段階ではない。



玉峰山周辺の事業予定地



田食 道弘 議員

質問 PCR検査料をいつでも何回でも無料に

町長 現在の検査料1万円を継続する



稼働中のPCR検査機器

質問 奥出雲病院でのPCR検査体制、実績は。

病院事務長 3台の検査機器により技師6名で休日、夜間を含め迅速な検査結果が出るよう体制をとっている。

1月より開始し、自己負担による任意検査を含め、5月末までで58件、最多は4月の28件の実績だ。

質問 仕事や葬儀等でやむを得ず県内外を往来する町民、町内で医療、介護業務

に従事される方、県外からの不特定の方へのおもてなしにあたる飲食・宿泊関係や観光業務従事者などの皆さんのコロナ感染への不安を和らげるために、PCR検査機器増設、検査速度迅速化など拡充が必要だ。

町長 1日20件以上の検査が可能だが、これまでの最多は9件だ。現在のところ、検査件数や検査時間には問題無いので、増設する予定は無い。

質問 広島県方式にならって、いつでも何回でも無料で検査を受けられるようにして、コロナ対策と社会経済活動の両立を図ってはどうか。

町長 財政基盤の弱い本町では単独実施できない。本町のPCR検査助成額は半額程度で、1万円の負担だ。対象範囲は町民に限らず町内へ通学、通勤される方、本町出身で町外の学

校の学生まで対象とするなど幅広い範囲が特徴だ。これによって感染者の早期発見や移動を余儀なくされる方の安心感につながっている。

基金取り崩しで国保税引き下げを

質問 3年計画で進めた基金取り崩しによる国保税負担軽減は昨年度で終了したが、基金残高は2億9,000万円、国保加入1世帯当たり17万3,000円も多額なままだ。

町長 3年かけて引き下げた結果、本町の国保税は県内市町村の平均的な水準にまで下がった。本年度も据え置く。これには基金取り崩しが前提で、負担軽減を継続する。コロナ禍により町民の生活は厳しい状況にあり、今年度に限り被保険者ひとり1万5,000円を減額したい。これも基金取り崩しで取り組む。

その他の質問

小学校再編協議には周辺部の人口減少対策を。選挙公報を全有権者に届けよ。

質問 コロナワクチン接種状況と今後の予定は

健康福祉課長 スケジュールよりも早まっている



高橋 恵美子 議員

質問 ワクチン接種について、町民は「いところ接種になるのだろう」と思っている。今後の予定は。

健康福祉課長 4月19日より高齢者福祉施設の入所者及び施設従事者500人に2回接種を完了し、5月24日からは一般

の65歳以上の高齢者に対する集団接種、個別接種を開始し、6月11日現在では約1,700人に1回目の接種が終わる予定だ。早い方は、6月14日から2回目の接種が始まる。65歳以上の希望された方については、7月末までに完了し、いつ

たん、高齢者接種の区切りをつけたい。64歳以下の一般接種は、基礎疾患を有する方の自己申告を6月14日から、6月22日までの受付である。なお他の町民への接種は、7月下旬を目途に接種券発送の準備を進めている。



集団接種会場カルチャープラザ

観光振興について

質問 現在、主要な観光客の広島・岡山両県に緊急事態宣言が出されている。この解除がなされないと観光客が奥出雲町に戻ってこない。目玉としての新しい企画の考えがないか。

アウトドアへの人気が高まったことなどがあげられる。玉峰山荘向かいの敷地に^{*}グランピングの施設を整備するよう調査・検討中である。また、民間個人の農家民泊や、いろいろな施設を整備することによって、観光振興、誘客に向けて取り組みたい。

^{*}グランピング施設
手ぶらで気軽にキャンプ体験ができる施設

休業補償について

質問 観光施設の従業員の休業補償は。

商工観光課長 国の雇用調整助成金制度

や緊急雇用安定助成金制度を、事業主が申請者となって活用いただいていると認識している。

条例の改正・人事・請願など

条例の改正など

全会一致

条例の改正

○国民健康保険税条例の一部改正

令和3年度の税率税額は据え置きとしたうえで、コロナウイルス禍を考慮し被保険者一人あたり15,000円を減額する。

全会一致

人事

○町監査委員の任命同意

大垣 照子

○選挙管理委員および委員補充員

委員 響 芳秋
立 石 典夫
安 部 誠一
青 木 陽一
松 浦 正敏
若 槻 正樹
藤 原 正樹
内 田 功

補充員

全会一致

請願

○持続可能な地域交通支援を要望する請願

・既存制度の拡充や補助金を含めた支援を求めるもの
・公共交通網形成計画を策定する際、各地区の小さな拠点づくりの会からの出席を求めるもの

委員会の意見

交通弱者の買物や通院支援に取り組んでいるグループや計画中のグループ・小さな拠点づくり活動組織からの幅広い請願であり採択すべきだ。

賛成少数

発議

○新型コロナウイルス禍による米危機の改善を求める意見書の提出

・政府は、コロナ禍で生まれた市場に滞留する在庫を買い取るなどして需給環境を改善し米価下落に歯止めをかけること

全会一致

財産の取得

○不燃ごみ最終処分場のバックホウ 1台

1,650万円

落札率 95.5%

コマツ山陰株式会社松江支店

○消防小型動力ポンプ付軽積載車 4台

2,640万円

落札率 86.3%

株式会社クマヒラセキュリティ松江支店

全会一致

契約締結

○除雪車格納庫（奥出雲工区）増築工事

契約の方法 指名競争入札による契約

契約の金額 5,830万円

契約の相手方 奥出雲町下横田

株式会社 安部建設

討論

新型コロナウイルス禍による米危機の改善を求める意見書の提出

石原武志 議員

美味しい仁多米を生産して、生産者と流通業者が連携して消費拡大を目指す。世界農業遺産の本審査目前であり、国の米政策に注文をつける時期ではない。

川西明徳 議員

仁多米の地域経済への影響は大きい。米価下落に歯止めをかけるよう要望すべきだ。

北村千寿 議員

平成30年生産調整が廃止され、国が示した「需要に応じた生産」に奥出雲町は向かっている。また、自由経済の中、国際的に縮減対象である価格対策を提言することは適切でない。

糸原壽之 議員

コロナ禍により余っている状態の米は国際貢献として、支援米とすることを提案したい。

採決の結果は？

議案のうち、賛否が分かれた議案の採決結果は以下のとおりです。

件名	結果	大垣照子	内田精彦	川西明徳	石原武志	内田雅人	景山利則	糸原壽之	田食道弘	小田川謙一	内田裕紀	糸原文昭	北村千寿	高橋恵美子
新型コロナウイルス禍による米危機の改善を求める意見書の提出	否決	○	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●

議長（藤原充博）は採決に加わりません。 ○：賛成 ●：反対 欠：欠席

追跡！ あいゃあどげなった？

横田高校に学習拠点施設を整備

令和2年度予算にて横田高校と連携して地域学習拠点施設（研修室、宿泊室など）を整備し、町外から訪れる高校生などと地域住民との交流促進を目的に事業着手し、紫雲寮の隣に今春完成し、4月より供用が開始されました。

＊教育目標である「耕心培学…心の田を耕し、学徳を培つ」

施設の名称：耕心館

○主な事業費

・ 建築工事	1億6,038万円
・ 機械設備工事	4,209万円
・ 電気設備工事	2,970万円
・ 測量設計管理委託料	2,067万円
・ 庁用器具費	247万円

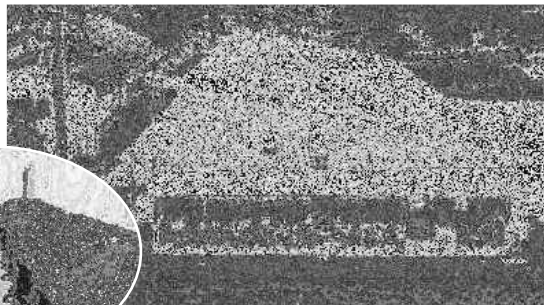
○構造

・ 木造平屋建	662.4㎡
・ 宿泊室（4人×8室）	17.4㎡
・ 多目的ホール	85.6㎡
・ 研修室	47.5㎡

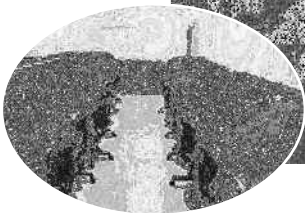
○総事業費 2億5,536万円

＊当初の目的どおり、町外から一人でも多くの生徒が横田高校に入學し、町民の皆様との積極的な交流が図られ、そして学習の拠点として活用されることを期待します！

あいゃあどげなった？



耕心館全景



研修室

木次線活性化促進議員連盟

木次線活性化促進議員連盟は6月2日、令和3年度の総会を行い、今年度の事業計画を承認し、合わせて任期による役員の変更をしました。7月12日雲南市議会と合同で研修会を開催しました。

議会傍聴

6月11日、横田小学校6年生25人が一般質問を傍聴にきてくれました。



熱心に議会を傍聴する子ども達

○児童の感想

- ・ 話は難しかったけど、私達の生活のためにしていることが分かって、よかった。
- ・ 町のためにやってくれていることが、雰囲気分かりました。
- ・ 話すとき、議場の大きな時計はちゃんと計っていました。

（一般質問は30分以内）

われら おくいずもん

亀高地区ゲートボールクラブ



玉峰会・五月会の二つのグループが活動されています。会員は、77歳～88歳までの20名で午後の時間帯を中心に練習しております。

このクラブは、社協の事業のひとつとして、昔の亀高小学校グラウンドで自治会対抗を、はじめたのがきっかけでした。その頃は町内各地で活発に行われていました。

平成20年に、現在の亀高郵便局の隣の場所をゲートボール場として整備されて、練習を重ね町内外の大きな大会へ参加し、優秀な成績を収めておられます。

また、ゲームに集中し白熱することも、しばしばあるようです。休憩時間になると、笑いあり、おしゃべりありと楽しい時間にもなり、心と体の健康につながっているようです。

それぞれの会の会長である、佐野圭子さん・米原雅美さんともに、このゲートボールをいつまでも皆さんと楽しく続けて行き、コロナが収束し、以前のような大きな大会へも、少しずつ参加したいと意欲を示しておられました。

議会を 傍聴しませんか

○次回の定例会は

9月です。

○詳しくは議事事務局まで
お尋ねください。

TEL (0854) 522-2678

議会からのお願

○議会や議会だよりへの「意見、ご感想、また「まちの元気グループ」へのご応募もお待ちしております。議会事務局までお気軽にお寄せください。

《あて先》

〒699-1183

奥出雲町横田1037

奥出雲町議会事務局

FAX (0854) 522-2642

URL: gkaietown.okuzuno.shimane.jp

広報公聴常任委員会

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 糸原 壽之 |
| 副委員長 | 田食 道弘 |
| 委員 | 小田川 謙一 |
| | 内田 裕紀 |
| | 糸原 文昭 |
| | 北村 千寿 |
| | 高橋 恵美子 |

(糸原 壽之)

新しい議会がスタートしました。
議会だより作成スタッフは、「広報」に加え「公聴」の役割を担うことになり、特別委員会から広報公聴常任委員会として、スタートしました。委員7人、議会の動きを皆様にしかりとお伝えし、今後、公聴の機会も設けて、議会と市民の皆様の間をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

